**特別展**

**「ユニバーサル・ミュージアム－さわる！“触”の大博覧会」**

実行委員長　広瀬浩二郎

国立民族学博物館　グローバル現象研究部・准教授

**１．会場・会期・入館料**

(1)会場：国立民族学博物館　特別展示館

(2)会期：2021年９月2日（木）～2021年11月30日（火）

(3)開場時間：10：00～17：00（入館は16：30まで）

(4)休館日：水曜日

(5)入館料：一般880円（600円・団体20名以上）／大学生450円（250円・団体20名以上）

／高校生以下無料

　　　　　　　※本館展示もご覧になれます

**２．展覧会の趣旨**

　　本展は、「ユニバーサル・ミュージアム」（誰もが楽しめる博物館）の人類学的研究に取り組む全盲の視覚障害者が中心となって企画・実施するものである。現在、ユニバーサル・ミュージアムは単なる障害者対応、弱者支援という枠を超えて、国際的に注目されている。大学の学芸員養成課程のカリキュラム、博物館の職員・ボランティア研修などでもユニバーサル・ミュージアムを取り上げるケースが増えた。本展は、各地の博物館・美術館の最新動向を踏まえ、ユニバーサル・ミュージアムの具体像を広く国内外に発信することを狙いとしており、博物館における「合理的配慮」の実践事例、あるいは障害当事者発の「ソーシャル・インクルージョン」（社会的包摂）の試みとしても注目されるだろう。

**３．展覧会の意義**

　　2016年４月に障害者差別解消法が施行された。学校教育の現場等では、さまざまな障害者に対する「合理的配慮」のあり方が模索されている。「障害学生支援室」を学内に設置する大学も多い。一方、社会教育・生涯学習施設であるミュージアムにおいては、合理的配慮への取り組みが遅れている。また、2021年には東京でオリンピック、パラリンピックが開催される。その関係もあって、昨今、各方面で「障害者」施策が推進されている。本展の会期はパラリンピックとも一部重なる。いわゆる「オリパラ」現象を一過性のブームで終わらせるのではなく、日本の障害者施策を「ユニバーサル」の観点で問い直し、社会変革へとつなげていかなければならない。本展では、「ポスト・オリパラ」の文化戦略を意識して、多様な展示と関連イベントを積極的に展開する。

**4．展示構成**

　　本展のサブタイトル「大博覧会」は、多種多様な素材と方法で「触」の可能性を追求する意気込みを示している。特別展の各セクションは、視覚優位・視覚偏重の従来の博物館展示のあり方に一石を投じるチャレンジと位置付けることができるだろう。

　セクション１～５では、来館者が触覚（視覚以外の感覚）に集中できるように、会場全体を暗くする。ただし、来館者の安全確保には十分留意し、照明を適宜調整したい。セクション６では絵画・絵本など、視覚的な要素が強い作品を展示する。特別展の総括として、あらためて「見る」ことと「さわる」ことを比較するのが本セクションの主題である。

　特別展の展示セクションは以下の七つに分けられる（詳細は出展作品リスト参照）。

０．「試触コーナー－なぜさわるのか、どうさわるのか」（導入）

１．「彫刻を超克する」

２．「アートで対話を拓く」

３．「風景にさわる」

４．「音にさわる」

５．「歴史にさわる」

６．「見てわかること、さわってわかること」

特別展「ユニバーサル・ミュージアム」出展作品リスト

（2020年2月現在）

０．「試触コーナー－なぜさわるのか、どうさわるのか」（導入）

・石川智弥・古屋祥子（彫刻家、「耳なし芳一」の彫像、山梨県）

・瞽女関連資料（民博所蔵）

・近鉄不動産（仏像レプリカと触察映像、大阪府）

・三木製作所（さわれる世界地図、大阪府）

１．「彫刻を超克する」

・片山博詞（彫刻家、ブロンズ作品、福岡県）

・北川太郎（彫刻家、石の作品、兵庫県）

・高見直宏（彫刻家、木彫作品、東京都）

・田代雄一（動物彫刻家、木彫作品、福岡県）

・冨長敦也（彫刻家、石の作品、大阪府）

２．「アートで対話を拓く」

・加藤可奈衛（彫刻家、コーンスターチの梱包材をつなぐ作品、大阪府）

・島田清徳（アーティスト、布の作品、岡山県）

・前川紘士（美術作家、ドローイングと「形の合成」、京都府）

・間島秀徳（日本画家、さわれる日本画、長野県／茨城県）

・松井利夫（陶芸家、「艶」を主題とする陶胎漆器、滋賀県）

・宮本ルリ子（陶芸家、手話と点字の「手」、滋賀県）

・守屋誠太郎（彫刻家、各種仮面、茨城県）

３．「風景にさわる」

・安芸早穂子（歴史復元画家、縄文の風景を感じる装置、大阪府）

・さかいひろこ（イラストレーター、さわれる地図、茨城県）

・酒百宏一（美術作家、場所の記憶を伝える装置、東京都）

・研究会メンバーによる「射真作品」（信楽のまちあるきから生まれる立体触知図）

４．「音にさわる」

・亀井岳（映像作家、盲学校生徒とのコラボによる音の鳴る土器、大阪府）

・永田砂知子・渡辺泰幸（打楽器奏者・造形作家、土の音具、岐阜県）

・芦屋大学の学生による「音で感じるスポーツ」（兵庫県）

・サウンドスケープ作品（日本点字図書館「音の絵はがき」コレクションなど、東京都）

５．「歴史にさわる」

・石原道知（武蔵野文化財修復研究所、縄文の腕輪、東京都）

・岡本高幸（美術家、体感型の古墳模型、大阪府）

・堀江武史（府中工房、土偶と仮面、東京都）

・吹田市立博物館（仏像レプリカ、大阪府）

・東京外国語大学（中東地域の女性用仮面、東京都）

6．「見てわかること、さわってわかること」

　①絵にさわる

・戸坂明日香（彫刻家、北斎の風景画の立体作品、京都府）

・ヨーコ・ソニア（アーティスト、布と繊維を組み合わせる作品、タイ・チェンマイ市）

・大塚オーミ陶業株式会社（陶板名画、滋賀県）

・京都市立芸術大学の学生による「さわる名画」（制作中、京都府）

・[KYOTOGRAPHIE](https://www.kyotographie.jp/)（触る写真、京都府）

②「物語にさわる」

・桑田知明（デザイナー、ポップアップ絵本、京都府）

・真下弥生（ルーテル学院大学、さわれる絵本、東京都）

・株式会社良品計画（フランス製のさわれるポスター、東京都）

・国文学研究資料館（『変体仮名触読字典』『触読例文集』、東京都）

・市販の各種バリアフリー絵本、アートブック（広瀬浩二郎収集・提供）

・わらべ館（触察玩具、鳥取県）

☆この他に、本館展示場「探究ひろば」に於いて、神社模型、継ぎ手アート、バードカービング、

　および３Dプリンターによる日本展示関係資料のレプリカ等を紹介する予定である。

実行委員長　広瀬浩二郎

[メールアドレス＿hirose@minpaku.ac.jp](mailto:メールアドレス＿hirose@minpaku.ac.jp)

携帯電話＿090-2454-3306

